

姉妹町 軽米町を訪問

7月22日から24日までの3日間、山本忠淑副議長と、1期目の議員、過去に訪問できなかった議員9名で姉妹町の岩手県軽米町を訪問した。

軽米町役場に到着すると、山本賢一町長、松浦満雄議長をはじめ議員の皆さんに温かく出迎えていただいた。



地域の資源を有効活用
(バイオマス発電所)

参加議員が自己紹介を兼ねて議員活動に対する思いなどを語ったほか、議員を志したきっかけや、議員のなり手確保についてなど意見交換を行った。

「宇漢米館」

2日目は軽米町議員にも同行いただきなが

ら町内施設の視察を行った。かるまい文化交流センター「宇漢米館」は、令和5年12月開館の複合施設で、生涯学習、子育て支援、図書館、商工・物産・観光の機能を併せ持つ。館内は明るく、ぬくもりを感じる設計で、多目的ホールの客席300席は電動で出し入れが可能。キッチンスタジオや音楽用スタジオは、気軽に利用できる工夫がされている。施設はバス待合所も兼ねており、世代を問わず多くの人をつなぐ文化活動の拠点となっていた。

バイオマス発電所

(株)十文字チキンカンパニーのバイオマス発電所は、地域の資源である鶏糞を最大限に活用した火力発電所で、

電気エネルギー供給と燃焼後の灰を肥料として活用し資源循環の一役を担っている。発電所は県内北部に点在する同社の養鶏農場所在地のほぼ中心に位置するため輸送エネルギーも最少となる。同社の環境への配慮を強く感じた。

令和7年は、軽米町と音更町が昭和60年に姉妹の盟約を交わして40年の節目となる。これまで多くの小中学生や議員をはじめ町の関係者が交流に関わり、それが両町の産業や文化の発展に大きく貢献してきたものと考えている。今後も相互理解を深め、歴史上の強く結ばれた縁を大切にしながら、まちづくりにも役立っていききたいと感じた。



姉妹町締結40周年 これからも両町の発展のために